

外国語活動学習指導案

令和元年 11 月 1 日（金）第 5 校時（13:50～14:35）4 年 1 組（計 5 名）

<授業の視点>

児童がオリジナルのカレーを紹介する場面において、「カレégrランプリで1位を目指してカレーを作る」という具体的な課題を設定し、なぜその食材を選んだのかという理由を考えさせたことは、発表の際に相手に伝わるような発表ができるための手立てとして有効であったか。

1 単元名 Let's Try!2 Unit 7 What do you want? 「ほしいものは何かな？」

2 単元の考察

(1) 児童の実態

～省略～

(2) 教材観

児童は、3年次に How many? - Three. など、物の数を尋ねたり質問に答えたりする表現を学習しており、さらに1～20までの数を言うことができる。野菜や果物などの単語も日本語との違いに気付きながら、言えるようになってきた。また、本単元の言語材料である What do you want? ~, please. はすでに3年生のときに慣れ親しんでおり、欲しい物を尋ねたり答えたりして伝え合う表現を学習してきている。これらの学習を生かして、本単元では、答え方をフレーズではなく、文表現として言えるようにする。さらに、これまでに慣れ親しんだ語彙や表現も使って、児童同士で二往復以上のやりとりができるようにすることがねらいである。

単元の最終目標を「自分のオリジナルのカレーを紹介する」と設定した。児童は、言語材料を使って必要な材料を集め、自分で考えたカレーを相手に伝える。覚えた事柄を使って、カレーの材料で自分が欲しい物を相手に伝える活動は、児童にとって必要感のある課題設定である。さらに、まとまった文章で相手に紹介する活動は、児童が自らの学びを実感できるようにさせる授業展開をねらいとしている。

このような単元の学習の中で、児童は校内研修のテーマである「筋道を立てて考え、自分の言葉で表現できる児童」像に迫っていくことができると考える。4年生の外国語活動として、「カレégrランプリで1位を取る」ための理由を考えた上で自分のオリジナルのメニューを考え、まとまった文章で発表するという活動は、中学年の目指す児童像「自分の考えの根拠と理由をもち、相手に分かるように順序立てて伝えることができる」姿を具現化できると考えられる。

さらに本単元で身に付けた力は、5・6年生の外国語で学ぶ言語材料につながっていく。第5学年の Unit 6: What would you like?の単元では、注文するときに尋ねたり答えたりするときの表現で本単元と関連した表現が使われている。また、第6学年では、名前や好きなことを発表する場面において I want ~. が使われている。学年が上がっても、自分の要求を伝える場面においては、本単元の学習を生かすことで、フレーズで二往復以上のやりとりができるようになっていくであろう。テーマを設定した発表活動は、5・6年生においても、根拠のある紹介文の発表を行うことができる力が身に付いていくと考えられる。

(3) 教材の系統

学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
単元	Unit 3: How many? 「数えてあそぼう」 Unit 7: This is for you. 「カードをおくろう」	Unit 7: What do you want? 「ほしいものは何かな？」	「NEW HORIZON Elementary 5」 (東京書籍) Unit 6: What would you like?	「NEW HORIZON Elementary 6」 (東京書籍) Unit 1: This is me! Unit 6: Let's think about our food.
主な学習事項	How many ~? What do you want? / ~, please. / Here you are. / Thank you.	What do you want? / I want ~, please. / How many? / ~, please. / Here you are. / Thank you.	What would you like? / I'd like ~. / How much is the ~? / It's ~ yen.	I like ~. / I want a ~. / How much is it? / We have ~. / We don't have a ~. / I want a ~.

3 単元の見目

食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しみ、自分が考えたメニューを、コミュニケーションポイントを意識しながら、理由とともに相手に紹介することができる。

4 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
・自分のオリジナルのメニューを、相手に伝わるように紹介しようとしている。	・食べ物英語を聞いたり言ったりしている。 ・欲しい物の尋ね方や答え方を聞いたり言ったりしている。	・コミュニケーション活動を通して、食材の言い方や、欲しい物を尋ねたり要求したりする表現に気付いている。

5 指導方針及び留意点

<つかむ過程>

- ・英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、友達や指導者と簡単なコミュニケーションを図る体験を積み重ねてきている。これまでに親しんできた語彙や表現（食材、数字、あいさつ）も使って、児童同士で二往復以上のやりとりができるように活動を設定する。
- ・オリジナルのカレーを作り、それを紹介するだけでなく、「カレégrランプリで1位を取るため」という場面を設定し、児童が明確な根拠を持って紹介できるようにさせる。
- ・本単元で児童が最終的にできるようになることのイメージをつかませるために、教師とALTが会話のモデルを見せ、どのような会話で何を紹介しているかを推測させる。

<追究する過程>

- ・学んだ単語を口頭ですらすら言えたり、材料やものの名前を迷わずに言えたりすることができるようにするために、毎時間ピクチャーカードを使って繰り返し練習したり、指名して言わせ一人が何回も言う機会を作ったりする。
- ・児童がすでに知っている単語やフレーズをより英語らしく言えるように、チャンツで英語のリズムを感じ取らせ、自信を持ってねらいである語彙や表現を使った会話ができるようにさせる。
- ・習得した単語を聞き取ったり言ったりするのに慣れるために、おはじきゲームを行うことで、語彙の定着を図る。

<まとめる過程>

- ・英語のコミュニケーションポイントである「①笑顔、②アイコンタクト、③はっきりとした声、④相づちをする」を伝え、さらにコミュニケーションが活発になるようにさせたい。
- ・言語活動では相手意識を持って取り組むことが重要であることを児童に実感させるために、リアクションをしたり感想を伝えたりする場面を取り入れる。
- ・カレーの材料を集める場面では、教師とALTがそれぞれのお店に分かれ児童と会話することで、児童が英語でのコミュニケーションに参加できる機会を多く持たせる。
- ・紹介する場面では、児童が自分で口頭練習する時間を十分作ることで、一人一人が確実に自信を持ってみんなの前で発表できるようにさせる。

6 授業中における生徒指導

<多面的な児童理解の充実>

- ・なぜその食材を選んだのか、根拠を明らかにして相手に伝えられるようにしていく。

<共感的な理解>

- ・教師や友達との会話では、相手の意見に相づちを打ったりリアクションしたりすることが大切であることを伝える。それは、お互いに話を受け入れ、相手を理解しようとしていることを示すことにつながるからという理由があることを体験させたい。ここでは教師がモデルとなって、共感的理解を促していきたい。

<自己存在感や自己決定の場を与える工夫>

- ・自分のオリジナルメニューを考えるという場を設けることで、一人一人の考えが違っていいということをお互いに認められるようにする。

7 指導計画（全5時間：本時は5時間目）

過程	時間	主な学習内容	支援及び留意点	評価項目と評価方法
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> 野菜や果物などの食材の言い方に慣れ親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 本単元でできるようになることを、教師がモデルとして示し、単元のめあてをつかませる。 野菜や果物の言い方をピクチャカードを使いながら言えるようにさせる。 	【気】 野菜や果物の外来語とその基となる語との音との違いに気付いている。 （観察・発言）
追究する	2	<ul style="list-style-type: none"> 欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入として教師とALTのモデル会話を示し、どのような会話かをつかませる。 野菜や果物だけでなく、その他の様々な食材の言い方も言えるようにさせる。 買い物ごっこをし、具体的な場面を想像しながらコミュニケーション活動を行わせることで、必要感のある場面設定の中でやりとりができるようにする。 	【慣】 野菜や果物の単語や、ターゲットセンテンスである（What do you want? / I want ~.）を聞いたり言ったりしている。 （観察・発言）
	3	<ul style="list-style-type: none"> 食材について欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。 自分のオリジナルのパフェを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と果物カードをやりとりしながら、自分の使いたい果物のカードを集めさせる。 集めた果物カードをもとに、オリジナルのパフェを、簡単な文で友達に紹介させる。 	【慣】 ターゲットセンテンス（What do you want? / I want ~.）を使って、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現を聞いたり言ったりしている。 （観察・発言）
	4	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな食材を集め相手に伝えるように、オリジナルのピザを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルのピザを発表する場面では、まとめる過程での発表を意識した言語材料も含めて言えるようにさせる。 単元を通したスモールステップで、まとまった文で紹介できるようにさせていく。 	【関】 オリジナルのピザを、これまで習った紹介の文（This is ~. / I have ~. / It's ~.）を使い、相手に伝えるように紹介しようとしている。 （観察・発言・ワークシート）
まとめる	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> カレーに必要な食材を集め、相手に伝えるように、オリジナルのカレーを理由とともに紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でカレーに必要な食材をあらかじめ決めさせておくことで、コミュニケーション活動のときに児童が悩まずに既習事項を使って言えるようにする。 全体発表の前に、十分な口頭練習の時間を取り、自信を持ってカレーを紹介できるようにさせる。 	【関】 オリジナルのカレーを、これまで習った紹介の文（This is ~. / I have ~. / It's ~.）を使い、コミュニケーションポイントを意識しながら、相手に伝えるように紹介しようとしている。 （観察・発言・ワークシート）

8 本時の学習

(1) 本時のねらい

カレー作りに必要な材料を集め、オリジナルのカレーを、英語のコミュニケーションポイントを意識しながら相手に伝わるように紹介する。

(2) 準備

教師：教科書、CD、ピクチャーカード（大・小）、ワークシート、口頭練習用掲示カード

児童：教科書、筆箱、のり、English Passport

(3) 展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ (7分)	<p>1. Greetings and Warm-up (あいさつとウォームアップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつをする。 アルファベットを順番に言ったり、英語の歌を歌ったりして、アルファベットについて復習する。 <p>Phonics song</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて カレーの材料を集め、オリジナルのカレーを友達に分かりやすく紹介しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 教師や ALT と一人一人が挨拶を行ったり、天気や曜日について会話したりすることで、外国語活動の雰囲気をつくる。 アルファベットについて復習したり、歌を歌ったりすることを通して、既習事項について確認させる。 単元のめあてや本時の流れを確認させることで、児童が見通しを持ち、意欲的に取り組めるようにする。 買い物ごっこで、「～が欲しいです」という表現を使ってカレーの材料を集め、オリジナルのカレーを友達に紹介するというめあてを伝え、活動の見通しを持たせる。 本時ではカレー紹介の内容をただ伝えるのではなく、「1位をとれるようにみんなにアプローチする」ことを意識させた上で、分かりやすい紹介とは具体的にはどのような態度かを考えさせながら、めあてに迫れるよう声掛けをしていく。
(3分)	<p>2. Practice and Review (練習と復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ターゲットセンテンス・単語の練習をする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>T: What do you want? S: I want <u>potatoes</u> / <u>onions</u> / <u>corns</u> / <u>carrots</u></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 野菜や果物などの単語を思い出させ、自分が買おうとしている食材について確実に言えるようにさせる。 コミュニケーション活動で、スムーズにやりとりできるように、チャンツを用いた口頭練習を繰り返し行う。
追究する (5分)	<p>3. Activity (コミュニケーション活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師や ALT とやりとりをして必要な食材を集める <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A: What do you want? B: I want a <u>potato</u>, please. A: OK. How many <u>potatoes</u>? B: <u>Three</u>, please. A: <u>Three</u>? OK. Here you are.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時まで、カレーに必要な食材をあらかじめ決めさせておくことで、買い物の場面で、悩んだり迷ったりせずにやりとりできるようにさせる。 集める食材は1人5つまでとすることで、簡潔な紹介文が作れるようにさせる。 教師（肉、魚、調味料）と ALT（野菜、果物）がそれぞれの店に分かれ、1対1で児童と会話することで、言語材料を確実に使えていたり、自分のカレーで使う材料をやりとりの中で言えたりしているかどうかを確認する。 集めた食材の単語を使って紹介文を言えるように、発表への見通しを持たせる。

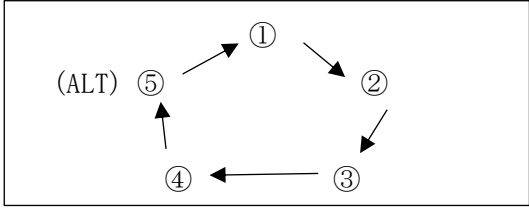
<p>(5分)</p>	<p>4. Show and Tell (紹介、学び合い活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入し、発表の準備をする。 教師のモデルを見て、発表の見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までにオリジナルのパフェやピザを紹介してきたことを想起させ、どのような文で紹介すればよいかを考えさせる。 ワークシートに、発表するために必要な情報(何のカレーか、そのカレーを作った理由)を記入させたり、食材カードを貼らせたりすることで、それを手がかりに紹介文を発表できるようにさせる。 教師が発表のモデルを見せることで、よい発表のイメージを持って練習に取り組めるようにさせる。 英語のコミュニケーションポイント「笑顔・アイコンタクト・はっきりした声」を提示することで、相手に伝わるような発表ができるようにさせる。
<p>(5分)</p>	<p>発表の練習(前半)をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自信を持って発表できるようにするために、教室内に練習場所を設け、各場所を回りながら発表の練習を行う。 ALTに話す場所も設けることで、相手意識を持ちながら自信を持って発表できるようにさせる。 教師は、それぞれの児童の様子を見ながら、発表に向けてコミュニケーションのポイントを押さえるようアドバイスを

Step1: Introduce an original curry
(紹介する)

【発表者】
Hello. I'm Moeko.
This is my original curry.
I have tomatoes, chicken, asparagus, cheese, and pineapples.
It's Italian curry.
I like my curry. Thank you.

Step2: Tell the reason
(作った理由を伝える)

T: Why did you make _____ curry?
S: このカレーを作った理由は、イタリアンカレーだとおしゃれで、彩りが良いと思ったからです。トマトをたくさん入れて、チーズをさらに入れるとピザのようになっておいしそうに思い、このカレーを作りました。



<p>(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さらによい発表になるよう、練習の途中で中間評価をする。 ・発表の練習（後半）をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習の途中で、児童に「発音や語句が難しいところ」や「言えないところ」を挙げさせて、全体でポイントを共有する。できていないところは、後半の練習で改善できるようにし、さらによい発表ができるようにさせる。 ・練習中、児童の English passport に、ALT はスタンプを押すことで、練習に取り組んだ成果を目に見える形で残し、児童に言語活動に対する意欲を持たせる。
<p>【予想される児童の様子と支援】</p> <p>A：発表するときのポイントを押さえながら、発表練習に取り組んでいる。 →ワークシートを見ないで言わせたり、今まで習得したことを活用してプラス1～2文の自分の表現（Hello. / Thank you. / I like my curry.）を言わせたりする。</p> <p>B：紹介文を棒読みしたり、ワークシートをずっと見ながら言ったりしている。 →英語のコミュニケーションのポイント（表情・声・アイコンタクト）を示し、さらによい発表にできるよう助言する。</p> <p>C：たどたどしくて、紹介文を言うことができない。 →紹介文を5つに区切りながら、一文ずつ言えるように助言する。</p>		
<p>(7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションポイントを意識しながら、オリジナルのカレーを友達に英語で紹介する。 ・なぜそのカレーを作ったのかという理由を日本語で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者の後に、児童がリアクションや感想を言い、お互いの良さを認められるようにする。（Wow! / Nice curry. / I like your curry.） ・根拠を持ってオリジナルのカレーを作ったかという児童の思考を図る過程として、「なぜその食材を選んだのか」という理由を発表の中に取り入れる。 ・日本語で理由を言わせることで、理由を英語で伝えさせるよりも、児童が考えた理由がより明確に伝わりやすくさせる。 ・児童の発表するときの態度で、よかったところについて称賛し、活動への意欲につなげる。
<p>【評価項目】</p> <p>○おおむね満足：オリジナルのカレーを、これまで習った紹介の文（This is ~. / I have ~. / It's ~.）を使い、コミュニケーションポイントを意識しながら、相手に伝わるように紹介しようとしている。</p> <p>◎十分満足：オリジナルのカレーを、あいさつの表現など今まで習得したことを加えながら、相手によりよく伝わるように紹介しようとしている。</p> <p>（観 点：コミュニケーションへの関心・意欲・態度） （評価方法：観察・発言・ワークシート）</p>		
<p>まとめ (8分)</p>	<p>5. Reflection (学習の振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレーの投票を行う。 ・振り返りカードに本時や単元全体の振り返りを記入する。 ・終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カレーの紹介を聞いて、自分が食べたいと思うカレーに投票させることで、「オリジナルカレーの紹介」という活動に達成感を持たせる。 ・振り返りカードでは「楽しく活動することができたか」「英語を使って取り組めたか」「友達や先生の言うことをじっくり聞くことができたか」「英語の4つの大切なことを考えて発表することができたか」の4項目について振り返らせる。 ・「～が分かった」「～を英語で言えるようになった」「～を伝えることができた」などと具体例を示し、本時や単元を通してできるようになったことを、自分の言葉で書かせることで、児童の成長を図る。 ・振り返りを一人一人発表させ、全体で共有する。 ・練習や発表での児童の努力を賞賛し、外国語活動の意欲を高めさせる。

9 板書計画

単元のめあて

「カレーグランプリ 2019 in 月北小」
で1位を目指して、オリジナルのカレー
を作ろう！

めあて

カレーの材料を集め、オリジナルのカレーを
友達に分かりやすく紹介しよう。

4つのポイント

1 カレーの食材を集めよう

A: What do you want?

B: I want a potato, please.

2 カレーを紹介しよう

I'm Moeko.
This is my original curry.
I have tomatoes, chickens,
asparagus, cheese, and pineapples.
It's Italian curry.

作った理由を伝えよう

T: Why did you make
_____ curry?

S: このカレーを作った理由は、

児童が紹介したカレーの絵

感想を伝えよう (リアクション表)

ふりかえり

「～を英語で言えるようになった」
「～を伝えることができた」